

第七十一回

瀬戸市文芸発表会

特選作品

短歌

【大塚 寅彦 先生選】

《一般の部 特選》

向日葵を素焼きの皿に染め付けて青のところで平和を祈る
ピアス穴見えし男のケアマネは津軽弁にて母と会話す
大道芸の青年掲げし銀のスプーン空かきみだし寒風を呼ぶ

瀬戸市上品野町 安藤 なみ
青森県北津軽郡板柳町 斉藤 隆
愛知県名古屋市 竹内 美香

《小中学生の部 特選》

砂浜に足跡残し振り返る思い出がある野外活動
暑くなり夏の輝き水しぶきほのかに見えた宙に舞う虹
部活中体育館に響きだすピンポン玉のよい歌い声

光陵中学校二年 カバネス レクサス
光陵中学校二年 佐藤 玄弥
光陵中学校二年 根来 胡乃羽

【近田 順子 先生選】

《一般の部 特選》

炎天下よせばいいのに這い出して干からびているミミズは僕だ
プーチンはいずれ死にます戦争はずっとずっと生きてゆきます
雨は止まないけれど差し出された傘に包まれた「次」を選んだ

福岡県北九州市 熊猫太夫
茨城県結城市 ハリオ
東京都杉並区 平久保 好一

《小中学生の部 特選》

二週間後期末テストが迫ってるいろんな気持ちがあふれている
たのしみは時間ギリギリ図書室でまんがを読んで光合成
守っていた最後のとりでがはずされるお店の中のキャベツの外の葉

品野中学校一年 奥 彩華
揖斐川町立大和小学校六年 後藤 尊人
光市立光井小学校六年 横道 玄

【松代 天鬼 先生選】

《一般の部 特選》

お陽様をいっぱい食べてきた命
肩書きを外すと白は白に見え
焼き物と将棋で瀬戸を盛り上がる

愛知県尾張旭市
奈良県宇陀市
愛知県知多郡東浦町

加藤 美子
翔のんまな
長坂 福夫

《小中学生の部 特選》

ウクライナロシアにせめられ悲惨だな
頑張れば大きな未来が待っている
登下校長い坂道皆笑顔

南山中学校一年
品野中学校三年
品野中学校二年

伊藤 颯海
タカヤマ マツオ
吉橋 拓人

【なかはら れいこ 先生選】

《一般の部 特選》

薬飲むコップにとかす里の空
猫眠る鈴かすてらの甘い音
雨水の水紋池に花火咲く

瀬戸市八幡台
愛知県半田市
瀬戸市やまて坂

佐藤 ちなみ
猫田 千恵子
平子 久仁子

《小中学生の部 特選》

夏の空雲が生きてる帰り道
友達が見えない敵と戦闘中
かんきするまどをあげれば虫はいる

光陵中学校二年
品野中学校二年
名古屋市立中小田井小学校二年

河村 奏夢
水野 瑛太
森澤 結衣

詩

【若山 紀子 先生選】

《一般の部 特選》

幸せの色

東京都武蔵野市

内村 佳保

雨

の日

透明な

窓が涙を

一面に流し

ビルだらけの

都会を水墨画の

ようにぼやかす時

すぐ終わると言われ

まだ終わらない日々が

永遠に終わらないような

気持ちにつつまれてしまう

：雨はまだ止まない、だから

カーテンは赤に、ソファは青に

壁は緑にして、黄色い花を飾ろう
せめて、このシェルターの中だけは
かつての日常の色で、満たしておこう
幸せがどんな色だったか忘れないように
.....雨はまだ止まない

仰ぐピース

東京都江戸川区

芳水るびい

ボクのパズル
壊れていく
1つのピース
手にとったそばから
3つに砕け指の間を転がり落ちていった
探しになんて行かなくていい
人生は長いのがだから
だから

下を見ずに天を仰いでいこう

君との約束

おぼろげながら覚えている

貴重な涙をすぐに落とすなんて

もったいないことなんだよ

自分の温かさをかみしめられること

それが涙の役割なんだ

すぐに軌道修正じゃ能がない

かみしめないといけないんだよ

温かさを

いつだって守ってきた

君との約束

でも

今日だけは下を向くよ

僕はピースを探す旅に出る

しっかり涙を拭きぬぐって

前を向いて歩き出すよ

《小中学生の部 特選》

からまったコード

聖霊中学校一年

岡 奏羽

あやとりをしている

人間の手を使わずに：

みんなで力を合わせて

大きな作品を作ろうとしている

でも 人間はじゃまをしてくる

私たちの作品作りに協力したくないのか

わからないけど

いっつも人間が入るとからまっちゃう

からまったらほどこいてくれないのに

片づけのできない赤ちゃんのように

あきらめてどっかへ行ってしまう

ほどこいて整理整頓をしたいなら

せめてあきらめずにほどこいてくれよお

動物相談室

聖霊中学校一年

蕾

仲間の作り方を知りたいならば

ゾウに聞けばいい

コミュニケーションの仕方を知りたいなら

イルカに聞けばいい

もっとポジティブになりたいなら

私の愛犬に聞けばいい

きつと元気になれるよ私の愛犬を見れば

何も分からず他のものの顔色を伺いながら

めげずに家のスリッパをどこかへ隠す

(でもスリッパと体の大きさがあまり変わらないからすぐ落とすしまうんだ)

まるで中学生になった自分のように

俳句

【田口 風子 先生選】

《一般の部 特選》

角砂糖ほどの重さの春愁い
春風を転がしてゐる手話の指
小さき手の生命線や新樹光

愛知県尾張旭市
大阪府池田市
瀬戸市東山町

浅野 憲治
八王寺宇保
山本 和史

《小中学生の部 特選》

花がきれい幸せの理由それでいい
秋空はマシマロの如きやわらかき
夕立ちと一緒に帰る子どもたち

聖霊中学校三年
金城学院中学校三年
聖霊中学校三年

金 娥賢
眞林
森 千珠

【佐藤 美恵子 先生選】

《一般の部 特選》

角砂糖ほどの重さの春愁い
晶子忌や戦絶えざる世を憂う
窯詰めを終へし陶工粽解く

愛知県尾張旭市
瀬戸市八幡台
瀬戸市城屋敷町

浅野 憲治
佐藤 ちなみ
武田 稜子

《小中学生の部 特選》

新入生バスに乗る顔あどけない
オ里昂座留紺の空に点つなぎ
わたし流つゆをブレンドそうめんだ

聖霊中学校三年
聖霊中学校三年
品野中学校二年

加納 久未佳
千歳 望勾
和田 來姫

【加藤 かな文 先生選】

《一般の部 特選》

桃を置く戦の記事の上に置く
夏の海足裏に砂の逃げまどふ
下萌や吹かるるやうに嬰歩く

瀬戸市上品野町
瀬戸市南山町
瀬戸市菟山台

安藤 なみ
尾崎 八重子
溝口 洋子

《小中学生の部 特選》

コンクール入選通知夏が来る
夕焼けが窓に琥珀の雨上がり
夏の風トンビとともにやってくる

聖霊中学校三年
聖霊中学校三年
聖霊中学校三年

下町 さくら
箕浦 寛菜
山中 琴葉

【横田 欣子 先生選】

《一般の部 特選》

桃を置く戦の記事の上に置く
春風を転がしてゐる手話の指
幼児の駆けて転んで地虫出づ

瀬戸市上品野町
大阪府池田市
瀬戸市東拝戸町

安藤 なみ
八王寺宇保
水谷 房枝

《小中学生の部 特選》

宿題にやる気ねじこむ初夏の朝
まっすぐに明日へ向かうひまわりは
しゃぼん玉ばっとはじけた君との間

聖霊中学校三年
品野中学校三年
聖霊中学校三年

石山 穂乃奏
加藤 さやか
堀 杏優